

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特色を生かし、生涯を通じて学び続けることのできる学力を備え、社会に貢献し、豊かに人生を送ることのできる人材を育成する。

- 1 深い学び…思考力・判断力・表現力を育成し、知識を基に個々の学びを深めることのできる学校
- 2 進路実現…進路選択の基礎となる確かな学力の定着を図り、生涯にわたって学び続ける力を育成する学校
- 3 共生推進教室設置校…違いを認め合い「ともに学び、ともに育つ」学校、一人ひとりの存在が大切にされる学校
- 4 地域からの信頼…行きたい学校、行かせたい学校として地域から信頼される学校

2 中期的目標

1 自らの進路を切り開くことのできる確かな学力の育成

（1）主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行う。

- ア 自ら授業力向上に努めるだけでなく、相互授業見学、公開授業、研究協議、研修等により、授業改善に努める。
- イ 「令和2年度学校経営推進費事業」により導入した全普通教室のプロジェクタなど、ICT 機器・視聴覚機器の活用を推進し魅力ある授業をつくる。
- ウ 新学習指導要領や高大接続改革の主旨に則り、多様な「学校設定科目」の開設などにより総合学科の強みを生かした教育課程の編成をおこなう。
- ※ 学校教育自己診断生徒アンケート「興味関心を持って取り組むことができる授業が多い」（H30：69％、R1：72％、R2：72％）を75％以上にする。

（2）生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組みを実施する。

- ア 探究的、体験的な学びの充実等、進路について自ら考える機会をつくり、生徒の学びのモチベーションを高める。
- イ 補習や講習、進路ガイダンス等の充実により、満足する進路が実現できることをめざす。
- ウ 家庭学習（授業外学習）に取り組む力の育成を図る。
- エ 英検、GTEC、漢検などの資格取得を積極的に推進する。
- ※ 学校教育自己診断生徒アンケート「自分が決めた進路に満足」（H30：87％、R1：88％、R2：90％）を90％以上に維持する。
- ※ 国公立大学、有名私立大学への進学実績の向上
関関同立の現役合格者（H30：20名、R1：18名、R2：25名）を30名以上、産近甲龍および四女子大（京都女子、同志社女子、武庫川女子、神戸女学院）合格者（H30：91名、R1：77名、R2：156名）を100名以上にする。

2 自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動、開かれた教育課程の実践

（1）学校行事や部活動を通じて主体性、協同性、コミュニケーション力など人間関係力の育成を図る。

- ア 共生推進教室の生徒と総合学科の生徒との交流の機会を持ち、インクルーシブ教育の推進を図る。
- イ 学校行事や部活動を生徒主体で運営することにより、自ら課題を発見し協働しながら解決していく力を育む。

（2）ボランティア活動・地域交流への取組みを促し自己肯定感を育む。

（3）大学・専門学校・小中学校・幼稚園などとの異校種間の連携を進め学びを深める。

（4）SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえ、国際交流を推進し、国際的な視野を育み、異文化理解を深める。

3 安全で安心な学校づくり

- （1）教職員が一枚岩となった生徒指導により、授業規律の確立、挨拶の励行、規範意識の醸成等をおこない、落ち着いた学校づくりを進める。
- （2）校内美化・清掃の取組みを充実し、過ごしやすい学習環境を整える。
- （3）教育相談体制を充実させ、いじめ防止に取り組み、安心して学校生活が送れる環境を整える。
- （4）人権教育の充実を図り、一人ひとりの存在を大切に学校づくりを進める。

4 学校の組織力向上及び学校の魅力の発信

（1）学校の教育目標を共有し、チームとして学校の教育活動に取り組む組織作りを行う。

- ア PDCA サイクルを活用し、学校課題の解決を図る。
- イ 研修の成果を共有し、教育課題及びGood Practice（学校改革に向けた他校の素晴らしい取組み）への理解を深める。
- ウ 教職員の働き方改革に取り組み、教職員一人ひとりの意識改革を推進しながら、時間外勤務時間数の削減に努める。

（2）学校の魅力の発信

- ア 学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取り組む。
- イ 学校 Web ページ、ブログ、広報資料等を活用して、学校の活動及び魅力が鮮明に伝わるように創意工夫、情報更新を行う。
- ※ 学校説明会での中学生満足度（H30：90％、R1：92％、R2：91％）90％以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和3年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
＜学校生活＞ 「1.学校へ行くのが楽しい」生徒84％・保護者78％、「2.学校に信頼できる友達がいる」生徒93％・保護者90％、「21.クラスには話しやすい雰囲気がある」生徒85％、保護者「13.学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしている」82％の肯定であった。多くの生徒が、安心した高校生活を送っており、保護者も安心感を持っていることがうかがえる。 学校行事を全て実施できたことで生徒同士の人間関係が構築されたと考えられる。 ＜学習活動＞ 「11.興味・関心、適性・進路希望に応じて選べる選択科目が多い」生徒94％、「3.自分の学力にあった授業が多い」生徒82％、「5.実験、観察、実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある。」生徒62％、「4.興味・関心を持って取り組むことのできる授業が多い」生徒71％、「7.授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表することがある」生徒78％、「9.教え方に工夫をしている先生が多い。」生徒79％（2年間で8ポイントアップ）と学習に関する肯定率はほぼ全ての項目で増加した。	第1回（6/22） ・高校生が地域へ出向く機会を少しでも多く作ってほしい。コミュニケーションの大切さを知ったり、動画作成などで力を発揮してもらったりすると、自己有用感を育むことにもつながる。 第2回（11/2） ・行事について去年はできなかった行事が今年はできていて一安心。行先が変わっても修学旅行にいけてよかった。 ・大学入学共通テストの変更についてどのように対策をしているか。英語は大きく変わっているが、私立大学は知識・文法問題も多く出題されている。英語の力を多面的に測れるように、小中学校ならSP表（学校/学級別解答状況整理表）を見ればわかりやすい。模擬試験もSP表をいえばデータをもらえるのかもしれないので活用するとよい。 第3回（1/22） ・自習室の活用はとてもよいが、先生方の働き方改革を考え、無理しないように。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 自らの進路を切り開くことのできる 確かな学力の育成	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業 ア 授業研究委員会を軸とした組織的な授業改善	(1) ア・授業研究委員会を中心に生徒1人1台端末時代を見据えた組織的な授業改善を図る。 ・総合学科の特色である少人数授業を通し、主体的・対話的で深い学び、思考力や課題解決能力の育成に向けた授業改善をおこなう。	(1) ア・教員学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学びに向け、指導方法の工夫・改善をおこなっている。」80%[79%] ・教員学校教育自己診断「「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行なっている。」80%以上維持[84%]	(1) ア・教員学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学びに向け、指導方法の工夫・改善をおこなっている。」87%で8ポイント上昇。さらなる上昇をめざしたい。(◎) ・教員学校教育自己診断「「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行なっている。」80%。研修等によりさらなる意識改革をめざしたい。(○)
	イ ICT 機器を活用した授業改革	イ・ICT 機器を活用し、視覚的なアプローチを通したわかり易い授業を推進する。	イ・教員学校教育自己診断「「情報機器を教科の授業で活用している。」65%[64%]	イ・教員学校教育自己診断「「情報機器を教科の授業で活用している。」88%で24ポイント上昇。授業用教員1人1台端末の購入により大幅に上昇した。(◎)
	(2) 生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組み ア 青雲道場の実施、生活習慣および学習習慣の定着	(2) ア・青雲道場（補習や講習、勉強合宿、大勉強会、自習室など）を実施する。 ・学習課題の充実に加え、スマホ依存への対策等により正しい生活習慣を確立させることで、授業外学習の定着を図る。	(2) ア・生徒学校教育自己診断「自習室・HR 教室での自習」55%[52%] ・生徒学校教育自己診断「家庭学習（授業外学習）1時間以上」50%以上維持[51%]	(2) ア・生徒学校教育自己診断「自習室・HR 教室での自習」59%で7ポイント上昇。さらなる上昇をめざしたい。(◎) ・生徒学校教育自己診断「家庭学習（授業外学習）1時間以上」53%。講習等の充実で学習習慣を育みたい。(○)
	イ 部活動との両立	イ・文武両道の学校創りに向け、部活動と学習の両立を図る。	イ・生徒学校教育自己診断「勉強と部活動の両立」65%[64%]	イ・生徒学校教育自己診断「勉強と部活動の両立」70%で6ポイント上昇。さらなる上昇をめざしたい。(◎)
2 自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動、開かれた教育課程の実践	(1) 人間関係力の育成を図る ア 部活動	(1) ア・新入生に説明会を実施し部活動の加入を推進し、人間関係を築く力を育てる。	(1) ア・部活動加入率:80%以上を維持[86%]	(1) ア・部活動加入率:84%で2ポイント減であるが、依然、高い数値を維持できている。さらなる上昇をめざしたい。(○)
	イ 学校行事	イ・学校行事において、主体性の育成を重点におきながら、生徒の満足度を高める。	イ・生徒学校教育自己診断「行事が楽しい」70%[60%]	イ・生徒学校教育自己診断「行事が楽しい」83%で23ポイント上昇。全行事を実施し、充実させることができた成果と言える。(◎)
	ウ コミュニケーション力の育成	ウ・授業等を通じて、自らの考えをまとめたり、わかり易く伝えたりする力を育成する。	ウ・生徒学校教育自己診断「授業では、自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」75%以上維持[79%]	ウ・生徒学校教育自己診断「授業では、自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」78%。1ポイント減。さらなる上昇をめざしたい。(○)
	(2) 自己肯定感の育み ア ボランティア活動・地域交流・高大連携	(2) ア・部活動および個人参加も含め、ボランティア活動への参加や地元小中学校や大学との連携事業、さらに地域行事等における交流を積極的に推進する。	(2) ア・ボランティア活動参加生徒50名以上を維持[95名] ・部活動を通じた中学校や地域等との交流45回以上[30回] ・大学、専門学校等からの、また、小中学校への出前授業を実施する。	(2) ア・ボランティア活動については校外で行われるものの中止が相次ぎ、参加できる機会が極端に減少し、26名のみの参加に留まった。(一) ・部活動を通じた中学校や地域等との交流は41回実施できた。目標には達しなかったが、コロナ禍を考慮すると十分評価できる。(○) ・行政機関、大学、専門学校、企業等7団体による出前授業を実施できた。
	(3) 国際交流の推進 ア SDGs や with コロナの視点を踏まえた国際交流	(3) ア・国際交流企画として AFS 日本協会と連携した留学生との交流や Web 会議システムを用いた海外の高校生との交流を通して国際理解教育を推進する。	(3) ア・Web 会議システムを用いた交流を実現する。	(3) ア・Web 会議システムを用いて台湾の高校生との交流が実現した。今後も続けていきたい。
3 安全で安心な学校づくり	(1) 生徒指導、遅刻指導、仲間づくり、過ごしやすい学習環境 ア 生徒指導・遅刻指導・挨拶の励行	(1) ア・学年団と生徒指導部が中心となり、朝の立ち番や担任による個別指導などを通して学校全体で遅刻数の減少を図る。 ・挨拶習慣醸成のため、教員から生徒への挨拶を励行する。 ・生徒の内面に切り込む、説得と納得を軸とした生徒指導を構築する。	(1) ア・遅刻者数を10%減[1,807名] ・生徒学校教育自己診断「先生の指導に納得」55%[52%]	(1) ア・遅刻者数は1458名で昨年同時期比19%減。学年、分掌の取組みの成果が出た。さらに、減をめざす。(◎) ・生徒学校教育自己診断「先生の指導に納得」58%で6ポイント上昇。2年間で13ポイント上昇。粘り強い指導の成果が出ている。(◎)
	イ 生徒間の信頼関係	イ・1年次生で仲間づくり研修を実施して生徒間の信頼関係の構築を図る。	イ・生徒学校教育自己診断「信頼できる友だちがいる。」90%以上維持[91%] ・生徒学校教育自己診断「クラスに話しやすい雰囲気がある。」80%[78%]	イ・生徒学校教育自己診断「信頼できる友だちがいる。」93%で2ポイント上昇。さらなる上昇をめざしたい。(○) ・生徒学校教育自己診断「クラスに話しやすい雰囲気がある。」85%で7ポイント上昇。学校行事を実施できた成果といえる。(◎)
	ウ 学習環境の整備	ウ・校内の設備・備品を整備し、過ごしやすい学習環境をつくる。	ウ・生徒学校教育自己診断「施設・設備に満足している。」55%[49%]	ウ・生徒学校教育自己診断「施設・設備に満足している。」59%で10ポイント上昇。今年度、エレベーターを設置した。今後も可能な限り、施設を充実させたい。(◎)
	(2) 教育相談体制の充実 ア 学校全体での取組み	(2) ア・ケース会議を可能な限り開催し職員会議の機会を利用して生徒情報の共有化を図り、学校全体で取り組む。	(2) ア・教員学校教育自己診断「生徒情報の共有化を図りチームで対応90%以上[87%]	(2) ア・教員学校教育自己診断「生徒情報の共有化を図りチームで対応」86%で1ポイント減。担任と担任外の情報格差を無くす必要がある。(△)
	(3) 人権教育の充実 ア 人権研修	(3) ア・教職員、生徒対象の人権研修を実施し、対応力の充実を図る。 イ・保護者と人権課題を共有するための取り組みをおこなう。	(3) ア・教職員学校教育自己診断「人権課題に対して教職員で話し合っている。70%[66%] イ・教員保護者合同研修の開催	(3) ア・教職員学校教育自己診断「人権課題に対して教職員で話し合っている。」67%で1ポイント上昇。教員はよくやっているが、目標値が高すぎたと考えられる。(△) イ・教員保護者合同人権研修を実施できた。

府立千里青雲高等学校

4 学校の魅力の発信	(1)チームとして学校の教育活動に取り組む組織作り ア・研修成果や教育課題の共有 ・教員集団のチームワーク向上	(1) ア・研修の成果や教育課題、Good Practice を共有する機会やミーティングを設け、話題にすることにより、チームとして教育活動に取り組む組織をめざす。	(1) ア・教員学校教育自己診断「研修報告の成果の共有」80%以上維持[81%] ・教職員学校教育自己診断「教育活動について、日常的に話し合っている」80%以上[84%]	(1) ア・教員学校教育自己診断「研修報告の成果の共有」86%で5ポイント上昇。さらなる上昇をめざしたい。(◎) ・教職員学校教育自己診断「教育活動について、日常的に話し合っている」85%で1ポイント上昇。教員は教育課題と向き合うことができている。(○)
	イ・働き方改革 ・会議の効率化	イ・「会議1時間以内」を組織の統一指針とし、効率的な進行に向けた工夫を推進する。	イ・教員学校教育自己診断「「各種会議が効率的に行なわれるよう工夫されている」70%以上[64%]	イ・教員学校教育自己診断「「各種会議が効率的に行なわれるよう工夫されている」52%で12ポイント減。予定開始時刻に始められないことで非効率な会議となるが多かった。超過勤務削減のためにも来年度は重点課題として取組みたい。(△)
	・部活動顧問の負担軽減 ・ノー残業デーの推進	・部活動顧問業務量の平準化推進やノー残業デーの徹底など、様々な取り組みを通して、全教員の月平均超過勤務時間40時間以下をめざす。	・月ごとの超過勤務時間の年度平均40時間以下[33時間]	・月ごとの超過勤務時間の年度平均は47時間となり、目標を大幅に超えた。休日の部活動指導による超過勤務が多くなっている。(△)
	ウ 組織改善に向けた保護者アンケートの充実 (2)学校の魅力の発信 ア 学校説明会 イ 学校Web ページ・ブログ・広報資料	ウ・学校教育活動に対する保護者の関心を高めるとともに、趣旨や意義をしっかりと説明し、学校教育診断の回収率を高める。 (2) ア・教職員及び生徒がともに、学校の魅力づくりを意識して行動する。学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取り組む。 イ・学校Web ページ、ブログ、広報資料をこまめに更新して、学校の活動及び魅力を鮮明に伝える。	ウ・保護者学校教育自己診断の回収率70%以上[69%] (2) ア・学校説明会に参加した中学生対象に実施するアンケートの満足度90%以上維持[91%] イ・ブログ(図書、学年、部活動、青雲道場、校長)の更新400回以上を維持[422回]	ウ・保護者学校教育自己診断の回収率81%で12ポイント上昇。大幅に上昇した。さらに向上をめざす。(◎) (2) ア・学校説明会に参加した中学生対象に実施するアンケートの満足度93%で高い数値を維持できている。(○) イ・ブログ(図書、学年、部活動、青雲道場、校長)の更新は432回で目標を達成できた。(○)